

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
110042	XXX1110042	2	後期	国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
日本史（近現代）	吉澤 文寿			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×				
授業目的							
この講義は、 第1期—19世紀後半から1945年までの日本の歴史について、とくに日本の近隣地域、すなわち台湾、朝鮮、中国、さらには東南アジアに対する侵略の歴史、第2期—1945年以後の日本と近隣諸国における戦争責任、植民地支配責任とそれをめぐる今日の議論を考察し、日本と近隣諸国との建設的な将来を構想することを目的とする。							
各回毎の授業内容							
第1回 【授】講義の概要 【前・後】講義全体の案内をするので、必ず出席すること。（予習・復習各2時間）				第9回 【授】日本の敗戦とアジア 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第2回 【授】明治維新と沖縄、北海道 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第10回 【授】極東国際軍事裁判（東京裁判）、日本国との平和条約 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第3回 【授】日清戦争と台湾・朝鮮 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第11回 【授】日華平和条約、東南アジア諸国との賠償交渉 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第4回 【授】日露戦争と韓国併合 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第12回 【授】日韓国交正常化 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第5回 【授】第一次世界大戦期の日本とアジア 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第13回 【授】日中国交正常化 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第6回 【授】満州事変・日中戦争 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第14回 【授】脱冷戦後の「歴史問題」 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第7回 【授】アジア太平洋戦争 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第15回 【授】第2期のまとめ 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）			
第8回 【授】第1期のまとめ 【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（各2時間）				第16回 【授】定期試験（レポート提出） 【前・後】詳細はガイダンス時に説明する。			
成績評価方法							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							70
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							30
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							
半期ごとに提出するレポート、および授業時に提出するコメントペーパーで成績判断する。 試験結果はポータルに示し、講評を加える。							
教科書参考書							
小林英夫『日本のアジア侵略』山川出版社、2001年、729円＋税。 内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2010年、800円＋税。							
受講に当たっての留意事項							
受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。学科を問わず、受講を勧める。							
学習到達目標							
講義内容の理解もさることながら、私たち日本人々にとって「アジア」とは何か、そもそも日本は「アジア」ではないのか—日本のアジア侵略の歴史に関連する今日の議論を学ぶことにより、上記の問いに対する答えを見つけ出すヒントが得られることを期待したい。							
JABEE							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習